

甲斐市議会議会改革特別委員会会議録

1. 開催日時 平成31年3月27日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（8名）

委員長	清水正二君	副委員長	五味武彦君
	伊藤毅君		金丸幸司君
	滝川美幸君		松井豊君
	内藤久歳君		藤原正夫君

議長 長谷部 集 君

欠席委員（1名）

有泉 庸一郎 君

傍聴議員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	岩下和也	書記	奥石文明
書記	中込美智子		

議題

- 1 第2回全議員からの意見聴取結果について
- 2 議員活動実日数調査結果について
- 3 委員会での意見集約について
- 4 その他

開会 午後 1時30分

○書記（輿石文明君） 改めまして、こんにちは。

ただいまから議会改革特別委員会を始めさせていただきます。

初めに、委員長挨拶、清水委員長、お願いいたします。

○委員長（清水正二君） 改めまして、こんにちは。

午前中は塩崎駅の竣工式にご出席いただきまして、本当にありがとうございました。ご苦勞さまでした。何やら、桜の花も今2、3輪でちょっととまっているようですけれども、非常に朝昼夕と寒暖の差が激しくて、体調も維持するのが大変かと思えますけれども、委員各位にはぜひ体調管理には十分ご留意いただいて、また、本日の議会改革特別委員会の審議のほうでいろいろと進行上ご協力をお願いしたいと思えます。

以上で私からの挨拶を終わります。

○書記（輿石文明君） ありがとうございます。

続きまして、議長挨拶、長谷部議長お願いいたします。

○議長（長谷部 集君） 改めまして、こんにちは。

議会改革特別委員会ということで、先ほどのお話のとおり、塩崎駅の竣工式に引き続きということで、大変ご苦勞さまです。

スケジュールを見ますと、4月にはこの委員会としての報告書の作成をまとめる作業、そして5月にはパブリックコメントという、もう期日が決まっているスケジュールの中で動かなければいけないということで、皆様方には大変ご苦勞かけますけれども、よろしくお願いをしたいというふうに思えます。

なお、小澤副議長におかれましては、体調を壊してしまったということで、本日の委員会出席ができない旨の連絡が私のほうにありましたけれども、委員の皆さんによろしくお伝えくださいということでしたので、ご了承願いたいというふうに思えます。

それでは、よろしくお願いいたします。

○書記（輿石文明君） ありがとうございます。

それでは、議事の進行につきましては清水委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（清水正二君） ただいまの出席委員は8名です。定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

なお、有泉委員におかれましては遅刻の連絡がありましたのでご報告をいたします。

本日の会議を開きます。

○委員長（清水正二君） それでは、内容に入ります。

内容（１）の第２回全議員からの意見聴取結果についてを議題といたします。

初めに、事務局の説明を求めます。

興石係長。

○書記（興石文明君） それでは、お手元の第２回全議員からの意見聴取結果一覧をお願いいたします。

前回から考えが変わった内容が網かけがされている部分でございます。議員定数を現状とする考えと削減すべきと考える考えについて、人数の出入りはございませんでした。現状とするが11人、削減すべきが11人ございました。

また、報酬についても現状、増額、その他の出入りはなく、現状が7人、増額が13人、その他が2人という結果ございました。

説明は以上です。

○委員長（清水正二君） 説明が終わりました。

委員のほうから何かご意見等ございますか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 毅君） 3月8日のこの意見聴取の結果のときなんですけれども、ここからちょっと多少私も考えが変わってきてまして、例えばこれから人口が減る中で、議員定数を削減するという話がまた数年後に出るようなことが、わからないですけれども、考えとすると、数年後というのは議会改革ももっと別のことをやっていたほうが良いという思いの中で、もし削減をするのなら今もうしておいたほうが良いのではないかと、ちょっと考えが変わりましたので、報告させていただきます。

○委員長（清水正二君） そのほかにも、委員各位のご意見等はございますか。

滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 今、伊藤委員からそういう申し出があったということで、そうすると、この委員会以外の議員たちにも変化があるかどうかということ把握しなければいけないの

かと思いますが、その辺はどんなふうにするのでしょうか。

○委員長（清水正二君） 今後の進め方の形になるかとは思いますが、議会改革特別委員会として議長のほうから付託されておりますので、この意見でちょっと先のほう、きょうの議題の中に踏み込むわけですが、議会改革特別委員会としては議会改革特別委員会としての一定の結論というか、そういう方向性を出さなければいけないと思います。その中で、またどういうふうな形でもって、その全員の意見を聞くか。当然、これは我々議長のほうに答申して、その結果をもって、議場でもって個人の採決という形になりますので、ここで当然個人個人の意思表示というものは確認できるかとは思いますが。

滝川委員。

○委員（滝川美幸君） そうでなくて、きょうの時点で伊藤委員からその申し出があったということは、たまたま伊藤委員はこの委員であるからこの申し出をしたのであって、この調査は全員にしているわけですね。だから、もし伊藤委員のようなこういう意見がある方というのがもしいるとしたら、その方たちには例えばそういうお話をして、入れかわりがあるのかどうかを決めた中で、議会改革委員会がまとめなくてはいけないと思うのですが。そうでないと、伊藤委員はたまたま発言する機会があったけれども、ほかの方に発言する機会がないということになってしまうので、ちょっとそこは難しいことではないので、例えば一日二日のうちに事務局のほうに変更がある方のご連絡くださいというような形でないと、ちょっとまずいんじゃないかと私は思います。

○委員長（清水正二君） この前、全協のときに意見はお聞きしました。皆さんの意見という形の中で、当然我々の側であればそれを、例えば議案とした場合には個人の意思として、そこで意見の中で当然変わる方もあるかとは思いますが、そういった意思表示という形の中で、形としては私はそういうふうを考えております。

意見という形では、今まで2回やってきた形の中で、当然その結果として意思表示という形になるので、意見は意見として今までそういった中で何回も意見を聞いてきたという形で捉えております。

すみません。今ちょっと踏み込んでしまったんですけども、意見聴取の結果という中で今意見を聞いておりますので、その件についてはもうちょっとこの後のところで、3番目の意見集約という形の中でいろいろご意見をいただきたいと思っております。

それでは、全議員からの意見聴取の結果という中ではよろしいですね。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 伊藤委員の削減のほうに回りたいということなんだけれども、この金額についてはどうなんですかね。丸のところは、ちょっと具体的には。これ、今から削減という決になるのかどうなのかわからないけれども、議員報酬のところまで一応聞いておいた方がいいのかなと思うんですけども、どうなんですか。

人数のほうだからいいのか。議員報酬は後回しか。そうだね。

できれば、伊藤委員もし削減ということであれば本人に、では何人になるのかということら辺までもっとお聞かせいただければありがたいと思うんですよ。

○委員長（清水正二君） そういうことで、伊藤委員いかがですか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 毅君） 人数までは、今の時点だと本当に、すみません、ちょっと検証はまだできないんですけども、やはり今人数入れた方がいいですか。

議会改革として現状でいくのか削減でいくのかと決まったとして、例えばそこで削減と決まってからまた人数を議論というわけでは、それはまた遠回しになってしまうんですかね。

○委員長（清水正二君） 今の伊藤委員の発言でよろしいですか。いいですか。

五味委員。

○委員（五味武彦君） そういうことであれば、きょうはどういう結論になるのかわかりませんが、削減の数とか、これはまた後の話ということで結構です。

○委員長（清水正二君） よろしいですか。この結果の一覧について。

なければ、以上で第2回の全議員からの意見聴取結果についてを終わりといたします。

次に、（2）議員活動実日数調査結果についてを議題といたします。

初めに、事務局の説明を求めます。

輿石係長。

○書記（輿石文明君） 横版の平成30年度議員活動実日数調査の集計表をごらんいただきたいと思います。

まず、全体の年間の活動日数の平均でございますけれども、表の一番下のとおりになります。右側の数字になりますけれども、平均しますと188.1日というのが年間の実日数です。

個人で見えていきますと、最も多い活動日数が299日。少ない活動日数が118日という結果となりました。

説明は以上です。

○委員長（清水正二君） 説明が終わりました。何か、この実日数調査についてご意見等ござ

いますか。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） ちょっと確認ですけれども、この集計調査したという動機。何でこれをしようと思ったのか、もう一回ちょっと確認の意味でお聞きしたいんですけれども。

○委員長（清水正二君） これは、さきの市民と議会の対話集会で、そこで議員が何日活動しているかということを知られたので、あの説明の中に日数として延べを出してありましたので、そこで私のほうで実日数調査をいたしますという形でお答えをしたので、一応各議員がどのくらい活動しているかということ、やはり明確にある程度把握していたほうがいいのではないかということの中で、この調査をすることといたしました。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） では、そういうことは、いずれ市民の方からこういった話があったということで調査したんですか。そうすると、どこかでやはり報告という形になると思うんですけれども、どういった報告の考えがあるのか。

○委員長（清水正二君） 私としては報告書の中に載せたいと思いますけれども、一番少ない日数でこのくらい、何日から何日までという形で、平均が何日という、個人個人のこれを載せるという意図ではございませんが。

休憩いたします。

休憩 午後 1時45分

再開 午後 1時47分

○委員長（清水正二君） それでは、議事を再開いたします。

先ほどの説明でよろしいですか。

松井委員。

○委員（松井 豊君） それで結構ですが、意見として。

僕らが合併前なんかもそうなんだけれども、要するに、議員なんてあと幾日も議会なんかやってねえだということで、非常に少ない日数で報酬をもらっているみたいなことが結構あったんですよ。俗にそういう意見になっちゃうんですよね。それに比べて、はっきりある程度数字に出るということはむしろいいことだと思うので、意見として。

○委員長（清水正二君） ほかにございますか。

なければ、以上で議員活動実日数調査結果についてを終わります。

続いて、（3）委員会での意見集約についてを議題といたします。

これまで議員定数、議員報酬の見直しについて協議してまいりましたが、特別委員会として意見集約をして、定数を削減するのか、また人数を何人にするのかなど見直しの検討結果を決めていきたいと思えます。

どなたかご意見ございますか。

日程的に、先ほど議長の冒頭の挨拶にもありましたけれども、日程的に迫ってきておりますので、議会改革特別委員会として意見集約をして、報告書というふうな形の中で進めていく段取りになるかと思えますが、それについてご意見を伺いたいと思えます。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） この日程ありきでやるということもいかなものかと思う部分もありますけれども、一応、いずれどこかの形で集約して、報酬と定数のことに関する特別委員会の設置の最終目的というものは、報告書を出すということになると思うので、そういうことを考えると、この特別委員会でまずその方向性を決めて、先ほど伊藤委員のほうからもありましたけれども、削減するという結論づけた中で、それから削減する人数をどうしていくかということを進めていかないと、前へ進んじやいかんところですよ。だからそれについては、ここまでの3月の8日の調査では五分五分という結論が出たんですけれども、今伊藤委員がそういう先を見通す中で考え方が変わったから削減というふうなことになったということだと思いますから、一応この特別委員会の中で方向性を示すというその結論に基づいて、また全協の中でやって、では何をするのがいいのかというような流れをやはり持っておかないと、前へ進んじやいかんと思うんですよ、これ。だから早目に、きょうであれば方向性だけでも削減するという結論づけを出して、その次に進めていくという格好で行ったほうがいいと思えますね。

○委員長（清水正二君） 滝川委員。

○委員（滝川美幸君） 先ほどの話に戻りますけれども、今内藤委員もおっしゃっていましたが、伊藤委員が削減に回ることによって10対12になるということで、どういう形で、例えば数で決めるわけですか。その辺ちょっとはっきりしないと、この委員会の進め方によって、やはり皆さんから意見を聞いた以上は数で決めてこういう削減がふえましたという形で、だから削減のほうに持っていくよという結論に持っていくのであれば、もう少し数

をきちんと、ほかの方たちからももう一度確認した上で、ここで移動があったのが1人だけかどうかということも、きちんと私は報告すべきだと思います。

○委員長（清水正二君） 議会改革特別委員会としてここに付託されてありますので、議会改革特別委員会として議長に対してその報告書を提出するという形は、これは取らなければいけないということで、議会改革特別委員会を設置したときにも、最終的な結論は理想としては全会一致という形が望ましいけれども、最終的な形であれば多数決もやむを得ないというふうな私自身の見解も述べさせていただきましたので、そういう形で私としては報告書を進めていきたい。いわゆる全体の意思表示なり意見なりという私の中であれば、議長にこれを報告をしてからまた全員協議会でやるという方向で、そういう形になろうかというふうに思います。前回の定数削減の意見のときにおいても、議会運営委員会で最終結論を得たという形でございますので。

五味委員。

○委員（五味武彦君） きょうの意見聴取表、3月8日のやつですか、あくまでこれは聴取結果であって、全員の意見がここへ反映されている。ただし、この会では会として、特別委員会として結論を出さなければならない時期なんです。どこで出すかとなると、この委員の中でではどうするかと。全員一致が今は正しいということにはできないかもしれない。でも、どこで決めるかとなると、多数決しかないんです。委員会として、現状なのか削減なのかまぎれなく決めた上で、ではこれを全協にかけて、委員会とすればこうなんだと。上程したのがそうなんだ。それに対して全員の意見を聞くとかいう段階です。では、その場合今度は何人になるのかとか、そういう段階にいいと思います。だから、このままであれば私はもうこの委員の中で削減するのか現状なのか、ここを結論したほうが。それから後、段階を踏んでいくと。そういうことで私はいいと思う。きょう欠席がいるので何ともその扱いをどうするかわかりませんがね。

○委員長（清水正二君） 金丸委員。

○委員（金丸幸司君） 先ほど五味副委員長が言ったとおりでして、最初自治会連合から定数削減という、削減して報酬を見直すというそれが来ているので、要は削減するかしないかということだと思うんです、最終的には。削減派か反対だというのが当然出てきて、全会一致はあり得ないということを使ったので、最終的にこの委員会の中で諮ったやつを先ほど言ったように全協で諮って、後は皆さんそれで判断してくださいということでよろしいのでしょうか。

○委員長（清水正二君） 今その議論をしているんです。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） だから、私はそれでいいというふうに思います。

○委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） 私ももうそろそろということで、やはりきょう有泉委員が来るということであれば、一応この会議の中で、議会改革でまず初めにどうするかという意見ですね。これをあれして、これはまたこういうことですよということを議長のほうに報告して諮るといふようなことが一番いいのではなかろうかという。伊藤委員のこれはあれとして、この中でとにかくちょっとして。そうしないと、もうどんどん進んでいかなければと、こんなふうに思います。

○委員長（清水正二君） 滝川委員。

○委員（滝川美幸君） わかりました。それで納得します。

あくまでもこの一覧表というのは参考でとったものであって、議会改革委員の中として結論を出すという形であれば、それはそれで結構です。

○委員長（清水正二君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） 私はもちろん削減に反対、とりあえずは現状維持ということで主張してきました。

前にも何度も言っているけれども、そもそも行政の側に立って仕事をしている自治会が、二元代表の片方を減らせという、こういう理論自体が果たしてまっとうなのかどうかということが、やはり地方自治という立場から非常に疑問があるし、全く言っちゃいけないというわけではないけれども、やはりそういう出し方というのが、しかも私も何度も言ってますけれども、いきなり自治会を出して、下から積み上げてきたものではなくないですね。年末にいきなり、連合会長と副会長がそれぞれ自分の持ち分でかなり強引な主張をして多数決という批判とか保留もあったけれども、結局多数決みたいな持ち込み方をした、そういう設定自体が僕は非常に納得できないんです。そういうのも含めて、ここで多数だからいいとか以前に、もう少し地方議会の二元代表制ということを論議する必要があると、僕は思います。

○委員長（清水正二君） 松井委員、すみません。今の自治会連合会から来たということに関しては、プロセスは云々といたしまして、議会として要望を受けまして改選前のときから申し送りという形で、改選後にこれを議論するという形でもって、議会としてその回答をしているので、そのプロセスはいかんとして、要望を受けてそういう形を議会として回答してい

るので、一応そこら辺のところのご理解はお願いしたいと思います。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） もし松井委員みたいなそういう意見があるとすれば、まずその採決していかどうか、そちらの発議をして。要するに、特別委員会として決をとりますよと、これを皆に諮って、それでオーケーであればさらに削減の方どうぞ、現状の方はどうぞという形で順を追っていかないと、今みたいな議論が出てしまうのではないですかね。

○委員長（清水正二君） 暫時休憩とします。

休憩 午後 1時58分

再開 午後 1時58分

○委員長（清水正二君） それでは、再開いたします。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 松井委員のそういう話もあるんですけども、甲斐市議会として定数と、それはもう議会改革をやっていく上での定数と報酬の問題ってずっとあって、たまたま自治会がそういうものを出してきたから、その出したときには結論づけできないから、次の議会で定数とそれについて協議しましょうと言って今があるわけじゃないですか。だから、そういう今までの流れを踏まえてここまで来ているから、それをまた元へ戻ってやっても意味はないし、進めないとだめだと思うよ。だから、それは今松井委員が言っているように、二元代表制の中でそういう自治会といっても。私の考えだけでも、自治会にとって、市あるいは自治会を構成する一番末端の組織の意見として、それは今言うように、総数の合意形成がなされたかどうかその過程というのは我々もどうなっているだなんて調査するあれもないけれども、ただああいう形で、連合会のトップが3役が連名で出していたということ、それだけに重みのあるものだし、ある面ではそれは民意として受け止めなければならないという部分があるから、議会で取り上げて特別委員会で協議をして、そして次の議会で検討しましょうという結論づけになったんだから、そしてここが今あるわけだから。だから、そういう各方のプロセスを考えていくと、今言うように、ここで何とか方向づけして結論づけしていかないと、今まで何をしてきたんだということになっちゃうから、それはやっぱりいろいろ意見があると思うけれども、ある程度そういうものを踏まえた中で前へ進めていかないと

まずいと思うんだよね。私はそう思うけれどもね。いろいろな意見は意見として尊重することが。

○委員長（清水正二君） 今ご意見を伺った中で、そういった形で結論づけて、委員会として方向づけを結論づけるということで各委員のご意見を伺いまして、まず、ここで方向づけをするという形で方向性を出していくのに、皆様のご判断を仰ぎたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

藤原委員。

○委員（藤原正夫君） 今内藤委員と同じで、もうここでもって、松井委員の言うこともわかります。それはそれで、それはそれということはないですけれども、もうかなり前からこんなことについて議論してきたのですから、ここまで来ているいろいろなことでアンケート調査を行った経緯があるので、もうこの辺で、この改革としての方向づけをどうするかということをやりましたほうがよかろうかと、こんなふうに思います。

○委員長（清水正二君） それでは、ただいまのご発言ありましたけれども、そのような形でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時02分

再開 午後 2時09分

○委員長（清水正二君） それでは、再開をいたします。

改めて、有泉委員のほうから本日欠席の旨の連絡がありましたので、ご報告をいたします。それでは、議員定数について削減とするか現状とするかについてを議題として、採決を行いたいと思います。

お諮りいたします。「議員定数を削減することについて賛成」の方はご起立を願います。

〔賛成者起立〕

○委員長（清水正二君） 起立多数でございます。

したがって、本議会改革特別委員会では、「議員定数を削減する」ことに決定をいたしました。

それでは、定数削減ということで決定しましたので、今後、これから議員定数の人数等についてまたいろいろご意見等を伺いたい。それぞれの進め方といいますか、議員定数の報告書に対して、どういうふうな形でいくかということもまたご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 一応ここで削減という結論づけができて、その進め方だけでも、この決議を受けて全員協議会で、特別委員会ではこういうふうに決まりましたと、決まったと。その次に、全協の中で決まったと報告をして、では削減といたら何人がいいですかと、さまざまな意見があるじゃないですか。それで、全員協議会にかけて、一応削減する方向で、では人数どれぐらいがいいかという議論をして、最終的にそれを受けて、ここで削減人数を決めるという、そういう流れでいいのかな。その辺をちょっと確認していきたい。

○委員長（清水正二君） 今、内藤委員のほうから、そういう形でというご意見ございましたけれども、いかがでしょう。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、そのようにいたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時13分

再開 午後 2時26分

○委員長（清水正二君） それでは、再開をいたします。

人数については、各会派に戻って会派の中でまた協議をいただいて、それをもって全員協議会を開くという形でもって議長に全協の開催を申し入れまして、また、その全協開いた後に議会改革特別委員会を開いて、そこでまた検討をして結論づけていきたいと思いますが、そのような方向でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、そのようにいたします。

それから、また議員報酬に関する報告書の記載の内容なんですが、これも議論としては恐らく現状の方たちから削減という方向になっていくと、またそこら辺のところも変わってく

と思いますが、含めて会派に持ち帰って、再度そういう形の中で各会派でご検討願うという形でよろしいでしょうか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 報酬の件だけれども、今ここに入っている増額という人がいるんだけど、やはり増額については具体的な数字を、増額というときはもっと具体的な数字を示してもらわんとわからんじゃんね。1万円だか10万だか5万だか。だから、そのところも、各会派でいったときには具体的な数字を示すような。そうしないと、集約のしようがないじゃない。そんなことをお願いしたい。

○委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時28分

再開 午後 2時40分

○委員長（清水正二君） それでは、再開をいたします。

先ほどの報告書に記載内容という形の中で、人数と議員報酬については、また同じ形で会派にそれぞれ持ち帰って全協までに、個人個人に決めていただくような形で進めたいと思いますが、これでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、そのようにいたします。

それでは、以上で委員会での意見集約についてを終わります。

続いて、（4）のその他を行います。

まず、次回の開催日ですが、一応この予定の中では4月11日になっておりますが、いかがでしょうか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 毅君） もし変更できるようでしたらお願いいたします。

○委員長（清水正二君） 藤原委員。

○委員（藤原正夫君） ちょっと11日は、伊藤委員と同じで都合が悪いので、できればというところであります。

○委員長（清水正二君） 伊藤委員。

○委員（伊藤 毅君） 例えば、全協をちょっとまだ日程があれなんですけれども、8日に全協をやって、その後に議会改革というのは内容的に難しいですか。

○委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時42分

再開 午後 2時49分

○委員長（清水正二君） それでは、再開をいたします。

今回の開催日程ですが、4月17日午前10時から全員協議会、特別委員会を午後1時半からということよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、そのようにいたします。

次に、委員より、その他何かございますか。ございませんか。

なければ、議長、何かございますか。

〔「ございません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） ありませんか。

なければ、事務局から何かありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） なければ、その他を終了いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして議会改革特別委員会を閉会といたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 2時50分